２／５(木)　４年１組　国語の授業

　長崎純心大学　山﨑　直人先生が、４年１組の児童にむけて、「国語科」の「学び方」を学ぶ授業を行いました。







山上憶良の短歌（万葉集より）

しろかねも　くかねもたまも　なにせむに

まされるたから　こにしかめやも





この短歌をもとに、短歌の意味を考え、想像することを授業の流れの中心として、国語の時間に大切な力を、どうつけていくのか、わかりやすく教えてもらいました。



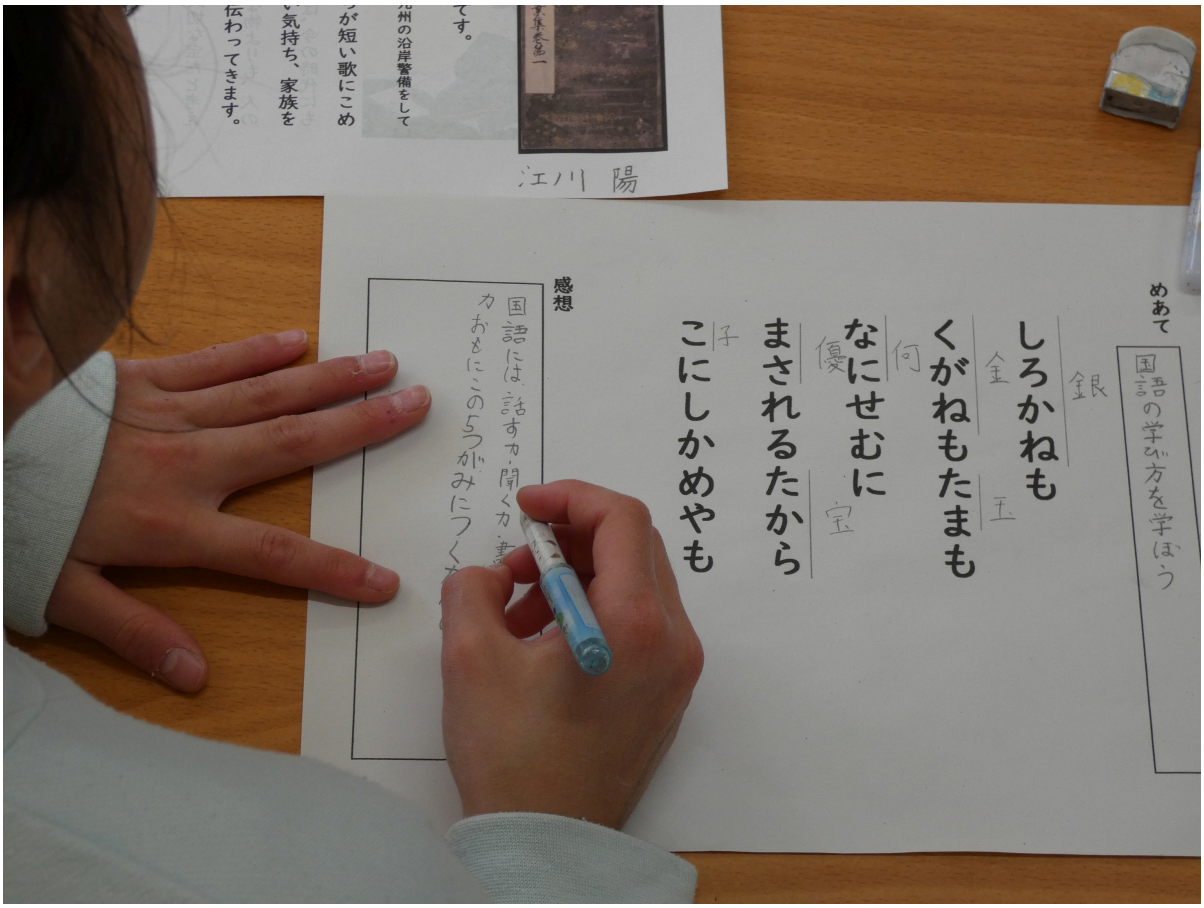

岩山
木村
竹笛


木村
岩山
竹笛
桑原



「銀（しろがね）も、黄金（こがね）も、宝石も、いったい何になろうか。（いや、何の役にも立たない）。それらに勝る宝として、子供に及ぶものがあるだろうか。（いや、子供に及ぶ宝物などない）。」

子どもの想像力で、この短歌の意味までたどり着き、子どもたちからも達成感が感じられました。





授業の終わりには、感想を発表し、自分や友達の考えを交流する姿が見られました。


PUMA